

第2回 品川区学事制度審議会 会議録(要旨)

日 時:平成 28 年 12 月 1 日(木) 17:00~19:00

場 所:353・354 会議室(品川区役所第三庁舎 5 階)

出席者:

委員	(出席委員) 名和田委員長、窪田副委員長、樋口副委員長、保科委員、矢野委員、 高林委員、三瓶委員、小宮委員、巻島委員、村田委員、秋廣委員、木下 委員、矢田委員、佐藤委員、山口委員 (欠席委員) なし
区側 出席者	中島教育長、本城教育次長、品川庶務課長、篠田学校計画担当課長、 有馬学務課長、熊谷指導課長、村尾教育総合支援センター長、木村品 川図書館長、山本統括指導主事、中山企画部長、柏原企画調整課長、 伊崎地域活動課長、若生学校計画担当主査

1 開会

2 委員長あいさつ

3 議事

(1)品川区立学校の適正規模について

(事務局より説明)

委員:

- ・ 義務教育学校の標準規模は、小学校・中学校の標準規模とは別に1校あたり18学級~27学級(学年あたり2~3学級)と定められている。区では義務教育学校6校中4校が27学級を超え、大規模校になる。
- ・ 小学校の場合、標準学校規模が約57%で、全国的には30%程度なので、品川区は全国的にみて標準規模が多い。
- ・ 極端に規模が小さな学校もいくつかあり、その学校に通う子どもたちのことをどうするかということが問題になる。

事務局:

- ・ 人口推計では地区ごとで子どもの増加傾向に差があり、小規模といわれていた学

校がこの先標準規模になっていくこともあると見込んでいる。

委員：

- ・ 義務教育学校については、品川区は後期課程で他校から学校選択で入れるために、国の基準より学級数が多くなっている。
- ・ 品川区の中学校の現実を見ると、国の標準規模より少ない1学年3学級(9学級)程度が一番やりやすいと感じる。

委員：

- ・ 学区域内で区立学校に在籍する割合が低い地域については、区立学校に魅力を感じていない人が多いということなのではないか。また、区立の魅力が上がると児童・生徒数が増えて、収容人数が必要になることも考えられる。

事務局：

- ・ 私立等への希望については、住民の意向などが大きいと認識している。学校の魅力が上がれば区立の割合も上がると思われるため、教育委員会としてもできる限りそうした方向性を目指していきたい。

委員長：

- ・ 区が魅力を上げれば私立もお金を投じて魅力を上げるとわれ、予測は難しい。
- ・ 今あることを踏まえて現時点で考えることを考え、方向性を出す必要がある。

委員：

- ・ 小学校ですまいるスクールで使用している教室については、今後将来的に児童増加に伴いますまいるスクールの需要も増えていくので、普通教室に戻すわけにはいかないと思う。

委員：

- ・ 今後、区として大中小のいろんな規模の学校をパッケージで用意できることが望ましいが、できないのであれば、限りなく中規模校に近づけていくということになるのではないか。

委員：

- ・ 都営住宅やマンションなど大きな建物が建つと、その周辺の学校の児童・生徒数がかかり変わってくる。今後、どの地域にそういった計画があるのかを考慮して検討を進めていただきたい。

委員：

- ・ 小規模の学校に対する対応として、品川の教育改革全体との関わりでどんなことができるのか、どんな可能性があるかという事例を上げて議論することが必要。

委員長：

- ・ 小・中・大規模それぞれのメリットを活かしていくという観点も重要であると気づかされた。校長先生の現場の実感も大事にしながら考えていきたい。
- ・ 品川区の場合は人口構造が安定しつつも、(再開発などで)大規模な建物ができたりすることもあるので、小規模校を閉めることには慎重にならなければいけない。存続している学校を大切にしていくという観点も大事と感じた。

(2)品川区の教育政策に関するアンケート調査(案)について

(事務局より説明)

<対象者>

品川区民(品川区全域を対象)から 2,000 人を無作為抽出

<アンケートの構成>

1. 回答者自身について(性別、年齢、区内居住年数、居住地区、世帯構成など)
2. 学校・家庭・地域社会の連携づくりの取組みについて
3. 学校選択制について

<主な発言・意見>

- ・ 前回平成20年の審議会でも区民を対象としたアンケートをとっており、それとの比較も念頭に置いたものになっている。
- ・ 学校から地域に対してどうアプローチするかという面が弱いと感じる。
- ・ 学校・家庭・地域社会の連携づくりの設問にコミュニティ・スクールの考え方を入れたほうが良い。例えば「地域の教育力を導入し、学校支援をしていく」など。
- ・ 地域のお祭りや防災訓練への参加意識の設問について、お祭りとは防災訓練では参加状況が異なるため、別々の選択肢を用意したほうがよい。
- ・ 審議を踏まえ、出来るだけ早くアンケートを実施して、今後の審議にアンケート結果を活用していく。

4 その他

特になし

5 連絡事項

次回(第3回)は、12月20日(火)に開催予定。

6 閉会

以上